

令和7年度 第2回東川養護学校 学校運営協議会（11月26日） 会議録

1. 開会・校長挨拶

- ・感染症への対応: 11月の学習発表会（東川養護祭）後、インフルエンザ流行により3日間の学校閉鎖を実施。現在は落ち着いているが、引き続き手洗い・マスク等の対策を指導している。
- ・教職員の欠員補充: 2学期途中に教職員の欠員があったが、11月1日付で千葉県より期限付き教諭の応募があり、現在、教職員の欠員は解消。教職員の多忙化と人材確保の難しさが課題。
- ・物価高騰と給食・バス: 米代の倍増や光熱費高騰に伴い、来年度以降の給食費等への影響を懸念。また、入札不調や後継者不足による給食やスクールバス運営の維持が深刻な社会問題と直結している。
- ・個人情報保護とセキュリティ: 他校での業者経由の情報漏洩事案を受け、本校の委託業者の適切性やサイバー攻撃への警戒を強化。

2. 各学部・各分掌の中間反省および諸課題の報告（副校長より説明）

①各学部の状況

- ・小学部: 児童生徒を全員で見る体制を確認。教職員の男女比による指導体制の工夫が今後の課題。
- ・中学部: 作業学習の材料費削減や牛乳パック回収を継続。暑さ対策を見越した指導計画の見直しが必要。
- ・高等部: 農業実習（農福連携）や、老朽化した設備の更新、販売会の導線確保が課題。
- ・寄宿舎: 学校と宿舍間の連携強化。Wi-Fi環境の整備や余暇活動の予算不足が大きな課題。

②分掌部の状況

- ・総務部: 防災・安全について、継続計画（BCP）の更新を実施。課題として、関係機関との連絡先リストの更なる整備が必要。
- ・教務部: 連絡アプリ「楽メ」の導入により、保護者連絡の効率化・ペーパーレス化を達成。
- ・進路支援部: ボランティア料等の徴収を学校諸納金と併せて引き落とす形式に変更し、現金のやり取りを廃止。
- ・研究部・子供支援部: 新たな研究テーマの精査や、校内支援会議のフローチャート整備による情報伝達の円滑化。
- ・情報管理部: Windows 11へのアップデート対応等、ICT環境の維持管理。

3. 本校の取り組み（農福連携・地域連携・コンプライアンス等）

- ・農福連携（教頭より報告）: 株式会社丸巳様（東川町）の協力で、シイタケ収穫や掃除作業、コンテナ組み立て作業等の実習を3回実施。高等部生徒が卒業後の進路を意識する貴重な機会となっている。
- ・地域連携研修（教頭より説明）: 1月に国立特別支援教育総合研究所から講師を招き、「各教科の資質・能力の育成」をテーマに研修会を実施予定。近隣の小・中学校、関係機関にも案内。
- ・卒業制作: 委員でもある家具職人、岡村様の会社ウッドワーク（東川町）のご協力で、高等部3年生がお箸作りを実施。
- ・コンプライアンス向上委員会の設置（副校長より説明）: 不祥事防止やSNS管理の徹底、ハラスメントのない職場作りのため、今年度より設置。事故報告の基準（ヒヤリハット、事故報告等のレベル分け）を明確化した。
- ・1日防災学校・人権教室（副校長より説明）: 防災食の体験や、人権擁護委員を招いた人権教室の実施。

4. 委員の皆様からのコメント・意見

- ・「本校の計画的な教育、特に小学部からの心理的安定を図りつつ高等部での作業スキル習得に繋げる一貫した指導は素晴らしい。一方で、教員の年齢構成の変化や、生徒の実態（ニーズ）の変容により、これまでのベースに加えて幅広い対応が求められていると感じる。学生（教育実習生）の教育を通じ、現場のニーズを汲み取った支援を考えていきたい。」
- ・「部活動の地域移行に関連して、学校の先生が地域移行後も関わり続けることの是非など、教員の負担軽減の観点から議論が必要。学校として『やること・やらないこと』を明確に切り分ける組織改編の視点が重要。ICT や AI の活用、セキュリティポリシーの策定においても、現場の負担にならない形での強化を期待する。」
- ・「（保護者の立場から）卒業生の父母から進路について直接話を聞ける機会（茶話会）や、事業所見学会は非常に有益であった。養護祭の制服バザーなど、保護者同士の助け合いも継続していきたい。学校閉鎖などで一部中止となった行事もあるが、冬の PTA レク（釣りゲーム等）を通じて子供たちが楽しめる機会を大切にしたい。」
- ・「卒業制作のお箸作りでは、刃物を扱うため細心の注意を払ったが、子供たちが楽しそうに取り組んでいる姿が印象的だった。事前の先生方の綿密な下準備があってこそ実現できた。我々ができるのは場所の提供だが、地域として子供たちの教育に関われることは光栄であり、今後も協力していきたい。」
- ・「校外学習や行事の際、昼食をとるスペースの確保など、学校単独では難しい部分も地域でできることはないか。先生方の尽力を聞き、地域としてもより一層の連携・支援の必要性を感じた。引き続き、密なやり取りをさせていただきたい。」
- ・「エレベーターやプールポンプなど設備の老朽化は深刻な問題。行政側への要望の出し方や、予算確保の優先順位について、地域の声としてもしっかり届けていく必要がある。学校の ICT 環境整備についても、時代に即した更新が不可欠。」

5. 閉会・学校長挨拶

- ・「コミュニティスクールとして、地域の方々から多角的な視点でご意見をいただけることは非常に心強い。教育の枠組みを時代の要請に合わせて変えていく必要がある。障害のある子供たちが注目され、誇りを持てる社会を皆様と共に作っていきたい。」

